## 災害レジリエンス共創センターの構想

災害レジリエンス共創センター 副センター長 越村 俊一

### 災害レジリエンス共創センター ミッション・ステートメント

**多様な主体との連携**により、レジリエンス向上のための「総合知」を探求し、社会に実装する.

#### お伝えしたいこと

- 1. 総合知とは
- 2. 災害科学における知の創出
- 3. 総合知の活用
- 4. シンボルプロジェクト(災害デジタルツイン)
- 5. レジリエンス共創の体制

# 総合知とは 総合科学技術・イノベーション会議

#### 総合知とは

#### 多様な「知」が集い、新たな価値を創出する「知の活力」を生むこと

- 多様な「知」が集うとは、属する組織の「矩」を超え、専門領域の枠にとらわれない多様な「知」 が集うことである。
- 新たな価値を創出するとは、安全・安心の確保とWell-beingの最大化に向けた未来像を描くだけでなく、社会実装に向けた具体的な手段も見出し、社会の変革をもたらすことである。 これらによって「知の活力」を生むことこそが「総合知」であり、「総合知」を推し進めることが、科学技術・イノベーションの力を高めることにつながる。

出典:内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局(2022),総合知」の基本的考え方及び 戦略的に推進する方策<中間とりまとめ>(案)

# 災害科学における知の創出と 総合知との関連

- ■災害科学とは、社会の具体的な問題解決を志向する科学
  - 実践性(実践的防災学)
  - 学際性 分野融合
- ■多様な学術分野が集まるため,科学的な方法論はそれぞれの分野に依拠していた.
- ■多様な知の集合が新たな価値を創出する(**=防災総合知**) ためには何が必要か
- →共通のDiscipline(規律と枠組み)を提案

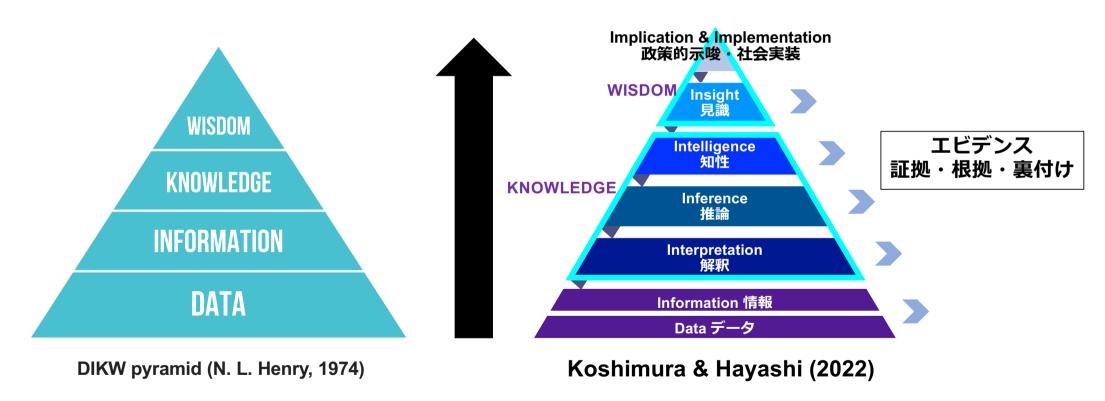
# 知の創出過程のモデル

■ ナレッジ・マネジメントにおけるDIKWピラミッド (cf. Henry, 1974).

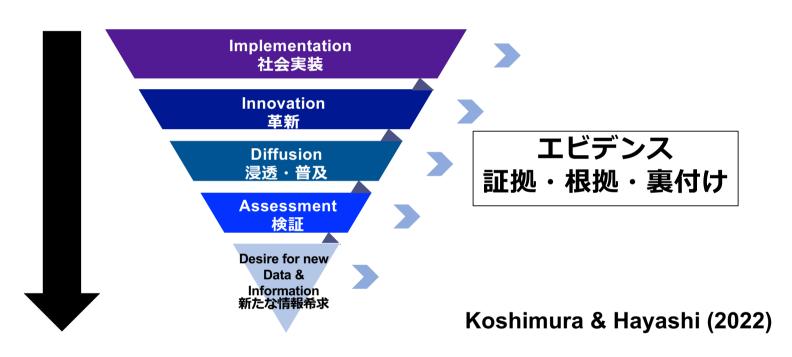
知の獲得過程を,データ(Data)→情報(Information)→知識 (Knowledge)→Wisdom(知恵)の4つの階層で構成.

- VUCA時代(Volatility:変動性, Uncertainty:不確実性, Complexity:複雑性, Ambiguity:曖昧性」)
- 情報爆発の時代
- 人文・社会科学の「知」と自然科学の「知」の融合による「総合知」の活用においては「**エビデンス」**が極めて重要

## 災害科学における知の創出の枠組

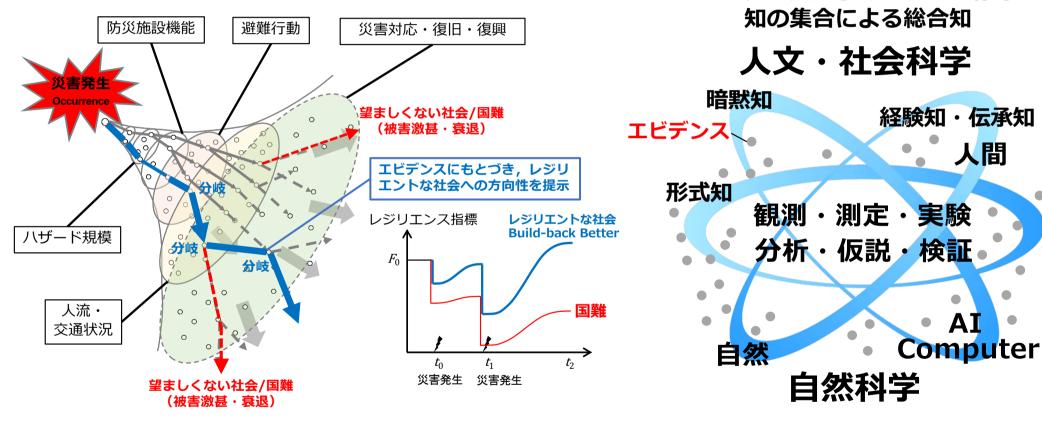


### 災害科学における知の創出の枠組 総合知の社会への実装・活用のプロセス



### レジリエントな社会に向けた総合知の活用

#### 災害過程の進展とシナリオ分岐

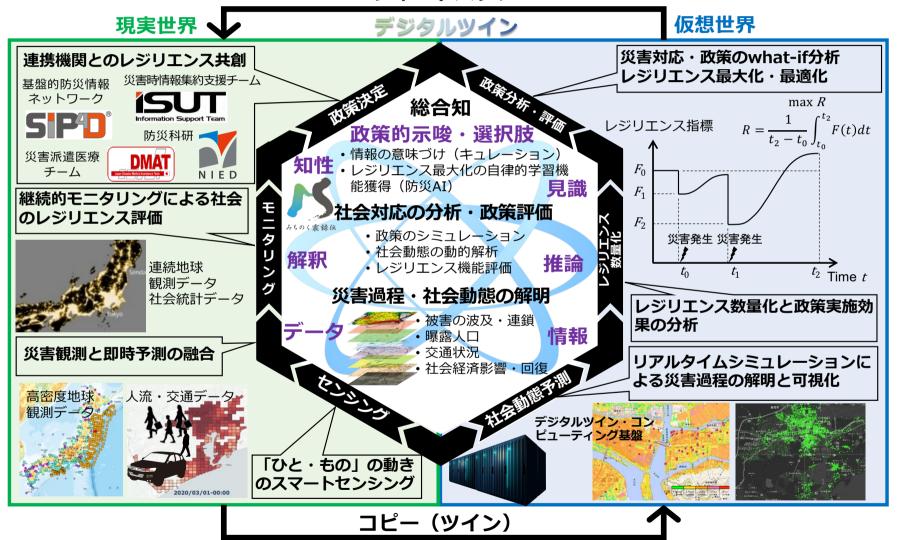


Koshimura (2017)

エビデンスから導かれる多様な

#### 総合知を活用するためのシンボルプロジェクト:災害デジタルツイン構築PJ

フィードバック



## レジリエンス共創の体制 多様な主体との連携・共創の実現

